教育旅行レポート　〝非日常の場〟に身を置き

文京区立文林中学校

伊勢志摩・京都2泊3日
17年5月26～28日実施

本郷光一校長

武藤章教諭

漁業や魚調理の体験「食育」集大成となる学習

東京都文京区の閑静な住宅街の中にある区立文林中学校（本郷光一校長）は、各学年が1学級で、全校生徒が67人という小規模校。生徒数は区立10校の中で最も少ない。

校訓は「文林開拓」。開拓の精神を発揮して真理の探究に努めること、友愛の精神をもって明るい社会を建設することなどを掲げている。少人数であることを利点ととらえ、校長自らが毎年生徒全員との面接を行うなど、校訓の精神に基づいた、目の行き届いた教育を行っている。

同校では今まで、京都・奈良2泊3日の修学旅行が多かったが、今年は伊勢志摩・京都の2泊3日で「食育と体験」を重視した行程を組んだ。背景には、現在の3年生が、1年次から「総合的な学習の時間」で「食育」を学んできたという理由がある。1年次には、区の施設を使った「八ヶ岳移動教室」でレタスの収穫を体験。また毎年1回「弁当の日」を設け、親の手を借りずに買い物から調理、箱詰めまでを生徒自身に行わせている。

今回の修学旅行実施にあたっては2回の事前学習会を実施。4月20日の「仏像に触れる」では、学校の近所の仏像屋に講師を依頼。ミニチュアの手作り仏像3体を教室に持参してもらい、説明を受けた。

5月8日の「伊勢志摩料理大会」では、伊勢志摩学生団体誘致委員会の協力により、ヒオウギ貝、加茂牛など伊勢志摩の食材を班ごとに調理して試食。宿泊先となる三重県鳥羽市の離島、答志島（とうしじま）から招いた「答志島体験学習の宿」代表の中村和久氏から、鳥羽市の無形民俗文化財に指定されている「寝屋子（ねやこ）制度」について説明を受けた。寝屋子制度とは、16歳になった男子数人が、寝屋親と呼ばれる世話係の大人の家で、10年間共同で寝泊まりして過ごす答志島独特の風習。中村氏は「離島では全員が助け合わなければ生きていけない。その基礎を学ぶのが寝屋子制度」と話した。島で釣り船に分乗し、刺し網を引き揚げ、魚を網から外し、網の手入れをするという約1時間の体験。その後、堤防での魚釣り体験、用意されたあじを1人4尾開いて液に漬け干物にする体験、先ほどの網や釣りで獲った、めばる、かさご、ぼら、などの魚を処理する体験も行った。出来上がったあじの干物は、後日学校に送ってもらい、全員に配布した。

翌日の朝食は、宿ごとではなく全員が漁港に集合。しらす丼、わかめ汁などの漁師飯を食べた。

2日目は昼過ぎに京都駅に到着。午後5時まで班別行動を行った。夕食後、やはり体験学習の一環として「漆器加飾と清水焼の絵付け」を旅館の大広間で実施。生徒達の作品は、後日、校内の「文林学芸発表会」で展示した。

3日目は、約5時間の京都市内タクシー行動の後、新幹線で東京駅に向かい、午後5時頃到着、解散という行程だった。

今回の3年生を1年次から受け持っている武藤章教諭は「体験が生徒を磨く」という長年の信念の下、「食育と体験」を教育現場で実践。武藤教諭の熱意が生徒たちの親の心を動かし、今回の離島体験修学旅行が実現した。

宿し、実際の寝屋親でもある各宿の主人らと交流、寝屋子を体験した。

今回参加した3年生は男子19人、女子9人の合計28人。東京駅から名古屋駅、鳥羽駅を経由して、鳥羽港から船で答志島に渡った。午後1時過ぎに答志新港に到着し、そのまま漁業体験を行った。

「事前学習で生徒たちは、仏像に触り、伊勢志摩の食材を自分で調理して食べた。事前学習には、可能な父兄には参加してもらった」と武藤教諭は話す。

本郷光一校長は「今回の『食育・体験プログラム』の修学旅行は、本校として初めての取り組みで、総合学習『食育』の集大成という位置付けだった。戻ってきた生徒たちに直接感想を聞いたが、口々に『答志島に行けて良かった』と話していた。思い出深い修学旅行になったようだ」と目を細めた。

ある生徒が現地で世話になった寝屋親に宛てたお礼の手紙には次のように書かれている。「本当に答志島は東京と違い、会う人、会う人があいさつをしてくれて、とてもうれしかったし、心が温まった。さらに、島の人たちの名前がほぼ分かるというのもうらやましいと思った」。離島の漁村体験は、東京都心に暮らす中学生にとってかけがえのない思い出となったようだ。

刺し網漁業の体験

あじの干物づくり体験

漁師飯の朝食

寝屋親を囲んで

横浜市立蒔田中学校

北海道・長沼、札幌、白老2泊3日
17年5月28～30日実施

木藤肇校長

農業体験メインに北海道へ　旅行会社はトラブル対応重視

「多くの人との関わりの中で」（公・開）、「自他の生命を尊ぶ、互いに思いやる豊かな人間性を育みます」（徳・体）、「進んで課題を発見し、ねばり強く解決していく力を育みます」（知・徳）、「自ら学力の向上に努め、自立的に学び続ける力を育みます」（知）―を教育目標に掲げる横浜市立蒔田中学校（横浜市南区、木藤肇校長）。1947年4月創立という歴史ある中学だ。

生徒数（夜間学級除く）は388人で、内訳は男子208人、女子180人。生徒の自主性を育てる校外学習は1年時が自然教室（2泊3日）、2年時遠足（日帰り）で、3年時が修学旅行となる。

今年の修学旅行は5月28～30日（2泊3日）、北海道の長沼、札幌、白老（しらおい）方面へ。3年生123人のうち、男子62人、女子58人の計120人が参加した。引率職員は11人で、旅行会社の大和観光興業から2人が同行した。

「横浜は飛行機を使った修学旅行が認められている。農業体験ができ、かつ、日頃意識しないアイヌ文化に触れることも貴重な体験になることから、行き先は北海道にしている」と木藤校長。

「スローガンは感謝・コミュニケーション・3年間の集大成という、『34PIECE』。全員で三つのピースをそろえ、パズルを完成させるのが目標」という。

28日朝、羽田空港に集合。飛行機が初めての生徒も少なくなく、飛行機を利用した修学旅行ならではの雰囲気もあるという。新千歳空港からバスに乗り換え、1時間ほどで農業体験を行う長沼町着。町民会館での対面式後、各農家へ。1軒に約4人の生徒、計30軒の農家で寝泊まりした。

修学旅行のメインである農業体験について、木藤校長は「都会の子は土に触る機会が少ない。農業体験をさせることで、日頃食べているものがどうやってできているのかが分かり、農家の皆さんの苦労も肌で感じることができる。また、地元の方と一緒に食事をしたり、話を聞くことは決して無駄ではない」と意義を強調する。

温室や納屋での作業、畑の雑草取りなど、農家の人の指導のもと、馴れない手つきで土と格闘する。夕食では自分たちが採った野菜を食べ、夜は語り合う。「翌日の別れの時には涙を流す生徒もいた。多感期ならではの感情だろうが、いい思い出になったと思う」と木藤校長。

生徒からは「農業を通して人との関わり方や食べ物の大切さを学ぶことができた。これからは農家の皆さんに感謝しながらご飯を食べたい」「食べ物一つ一つに感謝する気持ちを忘れずに『いただきます』『ごちそうさまでした』という言葉を大切に生活していきたい」「これからは食べれることや作ってくださっている農家の方々への感謝を忘れないようにしたい」という感想があった。

2日目は引き続き農業体験を行い、解散式後バスで札幌へ。班別行動となり、市内観光を兼ねそれぞれの目的地で見聞を広めた。宿泊先はホテルサンルートニュー札幌。

最終日も班別行動だが、この日は白老町のアイヌ民族博物館（ポロトコタン）や札幌市内の白い恋人パーク、千歳市の千歳水族館・ノーザンホースパークなどに足を延ばした。白い恋人パークでは菓子作りも体験。夕方、羽田着。

旅行費用は1人6万5千円。小遣いは7千円まで認めている。旅行費用については、家庭によっては負担となるケースもあることから、「7万円程度が妥当かな」と木藤校長はいう。

ケータイに夢中な年代だが、旅行先に持っていくことは認めず、持っているのが分かったら預かる。

修学旅行は1年の秋に決める。原則、旅行会社数社から見積もりを出してもらうが、近年は地元の大和観光興業を利用するケースが多い。旅行先である長沼町観光協会との結びつきが強く、地元の事情に精通し、安心して頼めるからだ。

木藤校長は、「旅行会社に求めるのはトラブルがあった時にどう迅速に対応できるかだ。お金（旅行代金の）だけの問題ではない」と強調した。

ファームステイ先の農家で

白老のポロトコタンで

白い恋人パークでの菓子作り体験

新千歳空港で現地の観光関係者から歓迎を受ける

札幌での班別行動、大通公園のテレビ塔前

教育旅行の新しい形　伊勢志摩　で学ぶ旅

伊勢志摩でしか味わうことのできない豊かな自然や食材、生活文化や歴史、産業等の観光資源を活用した体験や見学プログラムを提案することにより、高い学習効果の得られる教育旅行プランの実現を目指すと共に、生徒さらには、児童・学生の皆さんの成長過程に必要な、心に残る思い出作りのお手伝いをしていきます。

サミット開催地　伊勢志摩へ

安倍総理大臣は、伊勢志摩でのサミット開催を発表した際に、「日本の美しい自然、そして豊かな文化、伝統を世界のリーダーたちに肌で感じてもらえる、味わっていただける場所にした」と選定理由を述べました。世界のリーダーたちが肌で感じた、日本の美しい自然、豊かな文化、伝統を感じに修学旅行で伊勢志摩を訪れていただきたいと思います。

横山展望台
サミット開催地賢島を一望

伊勢神宮
歓迎行事で訪問

ミキモト真珠島
配偶者プログラムで訪問

パンフレット＆企画書によるご紹介
パンフレット・企画書テンプレートを WEB 上でダウンロードしていただけます。発送にも随時対応しておりますので、下記窓口までお気軽にお問い合わせください。

モデルコースをご紹介
環境学習や体験学習などの豊富なコンテンツを基に、教育旅行の目的に合ったモデルコースをご紹介いたします。また、京都など他地域と組み合わせたモデルコースも併せてご案内しています。

動画で詳しく体験メニューをご紹介
様々な体験プログラムを動画でご紹介しています。Youtube でご覧いただける他、DVD 発送の対応もしています。

伊勢志摩教育旅行の総合窓口
〒519-0609
三重県伊勢市二見町茶屋 111-1
伊勢市二見生涯学習センター 1F
伊勢志摩学生団体誘致委員会
（公益社団法人 伊勢志摩観光コンベンション機構内）
TEL：0596-44-0800
FAX：0596-42-2929
MAIL：info@iseshima-kanko.jp

伊勢志摩の体験プログラムならびに宿泊施設の情報を集約し、伊勢志摩教育旅行の窓口として先生方や旅行会社の方からのお問い合わせ、資料請求にお応えします。
詳しくはコチラ　伊勢志摩学生団体誘致委員会ホームページ
www.iseshima-kanko.jp/business/gakuyu/

映画村の体験学習
本物と自然と昔にこだわる

お手軽な時代劇の扮装体験
時代劇の扮装をして映画村の江戸の町を歩いてみませんか。メイクなし、かつらも省いた着物の着付けだけのお手軽プランなら、短時間で「変身」して時代劇の世界をお楽しみいただけます。
【扮装種類】町娘・振袖若衆・武家内儀・千姫・若侍・遠山奉行・町人・浪人・坂本龍馬・新選組隊士・忍者

清水焼絵付け体験
【染付】素焼の生地に絵付けをしていただきます。染付の色はグレーと茶色の2種類あります。
【京焼】白色系に焼き上げた器やグラスに3～5色のカラーを使って絵付けをしていただきます。

京扇子・京うちわ手描き体験
舞踊や茶道にも欠かせない扇子やうちわは京都の伝統産業のひとつです。専門家の指導のもとにオリジナルの絵柄を描いて楽しんでください。

※体験学習は全て有料・要予約となります。

お手軽な時代劇の扮装体験

清水焼絵付け体験【京焼】

京扇子・京うちわ手描き体験

体験学習のパンフレット・DVDのご請求、お問い合わせ、お申し込みはこちらまで！
TOEI KYOTO STUDIO PARK
東映太秦映画村
http://www.toei-eigamura.com
〒616-8586　京都市右京区太秦東蜂岡町10番地
ナビダイヤル ℡0570-064349　お問い合わせ ℡075-864-7716
営業時間 /9:00～17:00（3～7、9月の平日と10、11月毎日）
9:00～18:00（3～7、9月の土・日・祝と8月毎日）
9:30～16:30（12～2月の平日）
9:30～17:00（12～2月の土・日・祝）
休村日 / 2018年1月15日～19日